

## 「バイオマーカーサイエンス社、アンチエイジングドックを全国展開」

(株)バイオマーカーサイエンス(大阪市、高乗 仁 代表取締役社長、電話：06-6943-1015)は、4月1日からアンチエイジング事業部を新設することになりました。当社は、人々が飛躍的に質の高い医療・健康を享受するための医療・健康システムの創出を理念に、平成14年12月25日に設立されました。主な業務は、ゲノム研究を背景にしたプロテオーム解析をもとに疾患予防を目的とする機能性食品開発の新評価システムの創出および新規医療・健康診断システムの開発を推進することであり、現在、数々の疾患予防バイオマーカーを探索・同定しつつあります。

今般、予防医療システムの構築を目指し、研究機能をさらに強化充実するために、研究所を横浜より京都桂に移転し開設するとともに、当社の事業目標である予防医療分野で脚光を浴びている「アンチエイジング(抗加齢)医療支援事業」に進出することとなりました。

同社取締役 CSO である京都府立医科大学大学院 吉川敏一教授の監修の下に、同志社大学アンチエイジングリサーチセンターの米井嘉一教授(前 日本鋼管病院 内科医長 人間ドック 脳ドック室 部長、「老化度判定ドック」を実施)を顧問として迎え、アンチエイジング検査支援、所見アドバイス、健康改善支援等のサービス(アンチエイジングドック)を健診センター、人間ドックをはじめとする医療機関に対して全国規模で提供し、また同社が開発中のバイオマーカーを採用したアンチエイジング医療支援を行います。正しいアンチエイジング医療の啓発、啓蒙を行うことは、国民の健康に資するだけでなく国の施策である医療費削減にも繋がるものと思われまます。

また、科学的エビデンス等で効果効用が実証されている機能性食品の正確な情報を医療機関に提供し、医療機関における臨床データの分析および解析等の支援を行います。これらの診断に基づく機能性食品は、(株)ファンケル等と提携し、より信頼性の高い製品の開発にも協力していきます。

企業との連携において、大手商社の双日(株)(東京都港区、土橋昭夫社長)、コンテンツ(情報の内容)を開発する(株)銀河工房(名古屋市、鈴木伴優社長)、女性を対象に健康増進システムの提供を行う(有)ウエルネス研究所(大阪市、安達実社長)からの協力も得ています。

また、今後 企業の健保組合、企業の健診センター、生命保険会社、中高年層を対象とした高級会員制リゾートクラブ、また運動療法の分野ではフィットネスクラブ等との提携も行う予定です。

尚、日本の健診市場は現在約 1 兆円に迫っており、同部門の 3 年後の売上高は約 20 億円を見込んでおります。

以上

お問合せ先： 株式会社バイオマーカーサイエンス  
アンチエイジング事業部  
電話：06-6943-1015

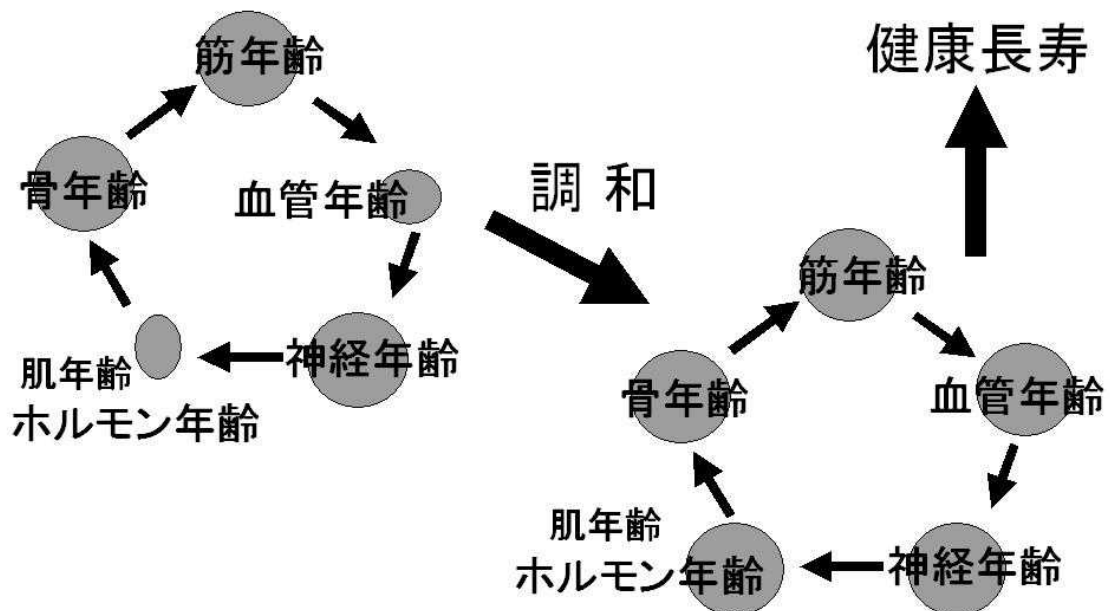
添付資料

アンチエイジング医療とは  
バイオマーカーとは  
株式会社バイオマーカーサイエンス

## アンチエイジング医療とは

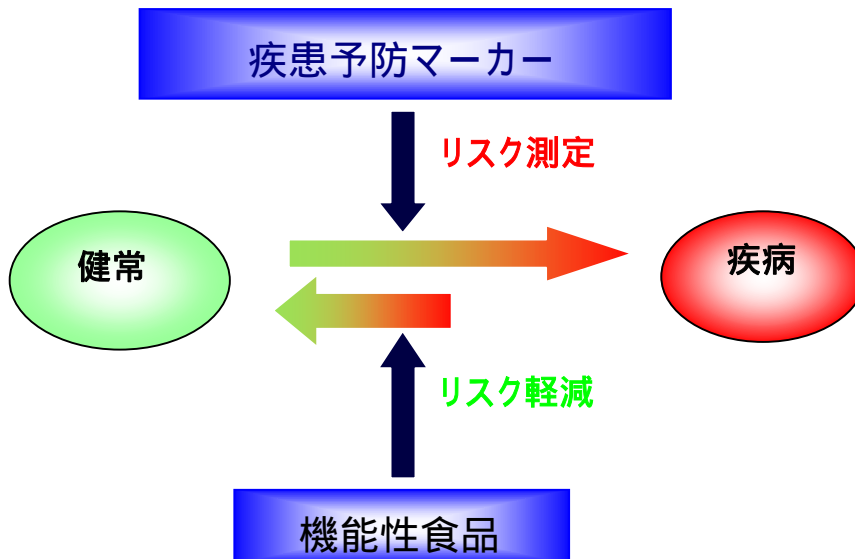
従来の人間ドック・検診は癌や生活習慣病の早期発見・予防・早期治療が目的ですが、アンチエイジングドックでは更に老化や生活の質(Quality of Life: QOL)の劣化についても早期に発見して、予防と早期治療を目指します。通常の検診項目に加え、骨年齢、血管年齢、ホルモン年齢、精神神経年齢、酸化ストレス度を評価し、健康長寿を目的とする抗加齢医学において、アンチエイジングドックは診断的役割を果たします。

## 健康長寿への道のり



## バイオマーカーとは

バイオマーカーとは疾患の目印として使用される、疾患に関わる生体内の生物学的変化を指します。疾患に罹患する時、生体においては、まだ症状が現れていない段階でも遺伝子や蛋白質の発現パターンに変化が起こっている可能性があり、こうした微細な生体内の変化は疾患の初期段階の目印、「バイオマーカー」として使用され、特定の病気を予防する機能性食品の発見・開発に役立つはずです。例えば、動脈硬化や糖尿病など長い時間をかけて発病する疾病に明らかに関係する「バイオマーカー」が見つければ、その変動指標に対して特定の食品の疾病予防効果を科学的に評価できる可能性があります。



## 株式会社バイオマーカーサイエンス

### 会社沿革

食品の疾病予防機能を表示する制度の確立と、その制度のグローバルスタンダード化を目指して各国が競争を繰り広げる中、日本の食品業界や、製薬業界でも、欧米の取り組みに対抗しようと、「機能性食品」の疾病予防機能評価方法確立への関心が高まっています。2002 年に大阪商工会議所の企画により「機能性食品開発研究会」が組織され、吉川敏一教授（京都府立医科大学）が座長となり 91 社の企業の参加を得て、「機能性食品」の疾病予防機能評価についての報告研究会が開催されてきました。こうした流れの中で、吉川教授は日本において「機能性食品」の疾病予防機能の評価方法を開発するベンチャー企業を即時に立ち上げることが必要であると考え、大澤俊彦教授（名古屋大学）や荒井綜一教授（東京農業大学）の賛同も得て、2002 年に会社を設立しました。

### 事業理念及び事業目標

ゲノム研究の進展は、既存の医療・健康関連の構造を大きく変える可能性を有するものであります。しかし新しい医療・健康システムを構築するためには、可能性を確実な実績に変え、また数多くの障害を解決していく努力が求められています。弊社は「人々が飛躍的に質の高い医療・健康を享受できるための」医療・健康システムの創出を理念とし、新規の予防医療システムの構築に貢献していきます。

### 沿革

- 2002 年 12 月 会社設立
- 2003 年 2 月 本社オフィスを大阪商工会議所内に開設
- 2003 年 4 月 機能性食品評価法開発プロジェクト協議会発足
- 2003 年 10 月 生研機構プロジェクトに採択
- 2003 年 11 月 横浜研究所開設
- 2005 年 1 月 研究所を京都桂へ横浜から移転

#### 資本金

8850 万円

#### 役員構成

取締役会長	杉野幸夫
取締役 C E O	高乗 仁
取締役 C S O	吉川敏一
取締役	大滝義博
取締役	江副尚憲
監査役	児玉達樹

#### 主要株主

吉川敏一、大澤俊彦、荒井綜一、高乗仁、大阪商工会議所  
(株) バイオフロンティアパートナーズ

#### 本社所在地

大阪市中央区本町橋 2-8 大阪商工会議所内 5F

#### 研究所所在地

京都市西京区御陵大原 1-36 京大桂ベンチャープラザ 2F

以上